

Topics 1 階段がうむ効果



階段は2階建て以上の住宅では欠かせないものであり、空間を縦に繋ぐ大切な役割があります。主にはオープン階段とボックス階段があります。オープン階段とは階段の両側または片側に壁がなく、桁などの構造材を用いて階段を支えるタイプの階段をいい、ボックス階段とは階段の両側面が壁に接していて、壁の中の構造材で階段を支えているタイプの階段です。

オープン階段は、昭和の時代の「階段は廊下の延長」



という概念に変化をもたらし、階段が空間やデザインの一部として存在するようになりました。「家具を選ぶように階段を選ぶ」というように、デザイン性の高い鉄骨階段などをリビングに設置したり、家族の動きが見えることでコミュニケーションが生まれるようになりました。

ボックス階段は、階段下のスペースに収納やトイレ、ワークスペースなど設置することで空間の有効利用ができたり、階段が壁に囲まれて設置されるため、遮られた壁によって上階からの柔らかい光が効果的に降り注ぎ、階段スペースならではの光の陰影を楽しめ、階段がギャラリーのような空間にもなります。また建築家フランク・ロイド・ライトの「オーガニックハウス」における「トンネル効果」という設計技法がありますが、狭くて暗いトンネルを抜けた先には空間の広さや明るさがより感じられるというギャップによる錯覚効果があり、ボックス階段ではそんな効果を狙った設計も可能になります。建築家はそんな錯覚効果までも狙った設計も得意としています。

Topics 2 おやつのためならどこまでも



無類のおやつ好きなわたしがこのためだけに遠出したのが静岡県御殿場市にある「とらや工房」。言わずと知れた「とらや」さんの菓寮です。全国にあるのに、なぜわざわざ御殿場へ?それは他の店舗にはないここだけのお菓子がある!!からです。

茅葺屋根の山門をくぐり竹林を進むと、緩やかに弧を描いた建物が。とらやの店舗を多く手掛ける建築家の内藤廣氏設計の工房と喫茶です。素敵なお庭がある旧岸信介郎(吉田五十八氏設計)も隣接しているので建築好きなわたしは食べる前からテンションがすでに上がっています。

朝が一番並ばない...と聞いていましたがそれでもすでに長い列。工房はガラス張りなので、お菓子を作る様子を見ながら順番を待ちます。無事にお菓子を全種類購入でき、半屋外の喫茶スペースで緑を眺めながら、早速で

きたてのお菓子をいただきます。どらやきに最中、季節限定の大福など、どれもさすがとらやさん!とても上品なお味でした。そしてお土産に買った干羊羹が食べたことのない衝撃的な美味しさ。干した羊羹?!気になりませんか?なかなか行けない場所だけど、また食べたいおやつです。

富士の印はとらや工房のシンボルマーク! ロゴデザインは葛西薫氏



■とらや工房 静岡県御殿場市東山1022-1

News Letter

建築家とつくる家
個性をカタチに、賢い家づくり。

2024.05

R+house 御殿場

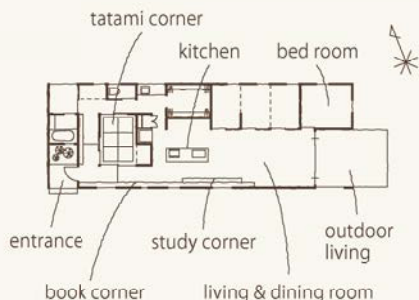


吹き抜けを通し対角に抜ける視線
面積より広く感じる空間



人間力を回復する家

日々のストレスからの解放、膨大な書籍の収納と音楽を楽しむ場所、『人間力の回復』というキーワードを基に、大好きな本に囲まれ図書館のように穏やかな時間が流れる場所を目指しました。東面は庭へと開放し、南面の大小の窓からは木漏れ日のように光を取り込み住環境を整えています。玄関から続く書棚、玄関土間と和室、木漏れ日、アウトドアリビングなど、時間の経過を楽しみながら、穏やかに暮らせる場所になっています。



キッチン前は
スタディカウンター。
座って正面の窓からも
ミカン畑が広がる。

大開口の外はアウトドアリビング。
屋根も掛かっているので
屋内的にも使える。



4



5



2

和室は寺子屋（塾）としても使用可能。
玄関も広く見え、
個室にもなる便利な部屋。

建築家プロフィール

中村 文典 Nakamura Fuminori

1972年 山口県生まれ
1993年 京都科学技術専門学校 卒業
1993年 ゼネコン設計部 勤務
1996年 設計事務所 勤務
2010年 n+archistudio 設立
趣味 バイクでのツーリングやメンテナンス、キャンプなど。
釣り、ヨット、MTBなどアウトドア全般（山登り以外）。

1. 南面から入ってくる木漏れ日のような光。それぞれの場所に適度な明るさと視線の抜けを確保している。
2. ミカン畑と山並み。ゆったりとした時間が流れる土地。
3. 玄関土間と一体になる和室は、土間越しの地窓から採光を取っている。障子を閉めれば客間にもなる。
4. 外観形状を活かした勾配天井に連続する書棚、東に抜ける大開口で、空間を外へと伸びやかに繋ぐ。
5. 東西に長く周囲にミカン畑が広がる敷地。敷地形状に素直に計画した。



Architect Column

建築家 おススメ “ケンチク”

リゾートホテルの原風景 “自然と共生する空間”



DOCOMOMO選定作品
沖縄の海に直結する大きなピロティと、それを成り立たせるワッフル構造の床、美しい階段の造形など、国場建築を成り立たせる仕掛けが見所です。
DOCOMOMO: 1988年に設立された近代建築の記録と保存を目的とする国際学術組織。



memo
Architect: 国場 幸房
Location: 沖縄県恩納村

今回ご紹介するのは、沖縄県の恩納村にあるホテルムーンビーチ（1975年竣工）です。沖縄初の本格的リゾートホテルであるこの建築の特徴は、1階のガジュマルの木陰をイメージして開放したピロティと、ポトスのカーテンに覆われた大きな吹き抜けです。吹き抜けには屋根がなく！日差しのみならず、ホテル内に「雨」を降らせ「風」が通り抜けれます。この二つの、自然と共生できる余剰の空間がとにかく素晴らしく心地良いのです。設計者は自然との共生を明確に意図しており、沖縄の全てを感じてもらうための情熱や工夫を随所に感じ取ることができます。例えば、上階に行くにしたがって客室廊下を逆・段々畑のように迫り出すことで緑のカーテンを美しく見せる工夫や、「雨」や「風」との共生を促すディテールなど。心地良い空間を追求した先に現れた素晴らしいパッシブデザインを是非体験してみてください。

春日 琢磨 Kasuga Takuma

春日琢磨建築設計事務所
趣味: キャンプ、カヤック、釣り、スノーボード、料理、読書



建築家 おススメ “ライフ”

旅先で出会った食器たちとの暮らし

大学で建築を志して以来、建築を見る目的で、国内外を含めて、多くの地を訪れました。旅の目的は建築であるものの、旅先で見る様々な工芸品に魅了され、いつしか窯元や雑貨屋を巡り、食器探しをすることがもう一つの旅の目的となりました。

日々仕事に追われて、平日は家族で食事をするのが少ないですが、休日は買い集めた食器を使い、ささやかな手料理をつくり、食べるのが楽しみになっています。住むための器である住宅が豊かであれば、日々の暮らしが豊かになるように、食器が豊かになれば、料理することや食べることに興味がわき、食事の時間も豊かになっていくのではないかと思います。



自邸のダイニング。
出西窯のうどん鉢と
長崎ガラスのグラスと
波佐見焼の長皿。



西井 洋介 Nishii Yosuke

一級建築士事務所ROOTE株式会社
趣味: 旅行・観葉植物・スポーツ観戦

出西窯での
息子の
絵付け体験



長崎・佐賀旅行で購入した食器